

(3) 在パナマ及びエルサルバドルに独立公館設置の件

0142

RM'-0007

0342

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

0144

次

遺憾である。

については来年度予算概算要求提出の時期を控えて、此の際左記の通り重ねて本使の意見進申するにつき、これが予算獲得に格別の御配慮を得たい。

左

当館は現在メキシコの他にパナマ、コスタリカ、ホンデウラエル。サルバドルの四ヶ国を兼任国として管轄し、又ニカラグア、グアテマラの二ヶ国についても事実上その事務を取扱っており、近くこれら二ヶ国をも正式に管轄することになつてゐる。即ち本使以下七名の陣容をもつ一館にて計七ヶ国の政務、経済等一切の事務を処理してゐるわけである。

2

0143

在メキシコ
特命全權大使 久保田 貫一

外務大臣 重光 葵殿

在パナマ及びエル・サルバドルに独立公館設置の件

中米地域に独立公館を増設する必要性については従来よりも屢々意見具申を致し、本省に於いてもその実現方に格段の御努力を演じてゐる次第であるが、今日まで実現を見ないのは洵に遺憾である。

経 M'13.2 総 5-1
務 課 解 除 秘
長 第 9 回 公 開

墨第三二九号
昭和三十年八月四日

文書課
30.8.13
000152

30.8.15
30.8.17
30.8.22

記帳了

処が地理的にも広範囲に亘り、且つ交通の連絡必ずしも良好でない斯る多数の国を一大使館で管轄することは兎角諸事手不足を免れず、外交上又は経済上の実質的活動を行うことは事実上不可能に近いのみならず、儀礼的交際さえも充分尽し得ない実状である。(旅費及び人員の関係で一年一回本使又は館員が各国を訪問するのが精一杯の有様である)従つて相手国からみても、日本は外交関係を設定し、公館を設置したとは言いながら、甚だ誠意のない遣方と解せられ易く、これに中米諸国特有の事大的思想と相俟つてパナマ政府の如きはわが国が独立公館を置かせざれば在本邦のパナマ公使館を廃止したいとの意向さえも示している現状である。

0146

又わが国の立場からみても、各種の国際会議等における投票その他に於いて「数」が問題となる場合に中米六ヶ国のその「数」としての力はわが国将来の国際場裡に於ける活躍を期する意味に於いて重視すべきにも拘らず、常日頃から活潑なる外交工作を行ひ得ない関係から幾多の不利を招く虞あるのみならず、中米諸国は南米諸国と異り、一般に経済的に好況であり、わが国のドル、ドライサ市場として開拓及び研究の余地は充分あるにも拘らず、手が廻り兼ねている有様である。これらの諸国はいづれも現在農業に依存しているか経済開発、貞国工業育成にも漸く力を入れんとする段階にて単純なる農業移民の入植の余地は殆んどないが、技術移民或いは企業進出の可能性は充分あるものと期待せられ、

0145

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RM'-0007

0344

過去に於いては採算上の問題から打切りになつたが、コスタリカに於ける大洋漁業（株）の漁業提携、近くは呉羽紡績（株）がサン・サルバドルに現地資本と共同の下に紡績工場を建設、操業することゝなつており、其の他わが方の努力次第によつては中小企業を導入で話のまとまるものも相当ある現状である。

パナマに於いてはコロンフリーゾーンを利用し、雑貨、繊維類のストックを常時保有せしめ置き、これを仲継地として中南米諸国に日本商品売込みを図れば相当の効果が期待せられ、是非考慮すべき貿易伸張策と考えられ、その他の国に対しても市場調査、宣伝、啓発を地道に実施すればわが国の商品進出の余地は相当あるものと認められる。以上の如く、中米諸国とは国交を一層緊密

0147

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0148

化し外交活動を積極的に展開することにより、わが国に齎すべき利益は相当大なるものがあると思われ、来年度に於いては少くともパナマ、エル・サルバドル両国に独立公館（公使館）設置を実現し、是非とも専任公使任命を期せられ、この場合にはパナマ公使をしてコスタリカ公使を兼任せしめ、エル・サルバドル公使をしてエカラグア、ホンデユラスの公使を兼任せしめるのが最も適當と考へてゐる。

万が一右の如き専任公使を伴う公使館設置が不可能の場合には従来在ドミニカ公使館に対して実施して来た如くメキシコ大使が各国の公使を兼任し置くことにするが、パナマ、エル・サルバドルの公館を独立せしめ、二名程度の館員を駐在せしめる

RM'-0007

0345

M 1.3.2.5-1

在外事務所設置年月日			
国名	事実上開設年月日	在外事務所設置年月日	国名
メキシコ	五二 四二八	五二 四二八	サン・パウロ
ドミニカ	五二 八二五		ベレーン
パナマ	五三 六二三		ペルー
キューバ	五三 一三二		ヴェネズエラ
エルサルヴァドル	五四 七二九		ボリヴィア
コスタ・リカ	公 五三 九二八 名 五四 九一		
ホンデュラス	五四 七二六		
アルゼンティン	五二 四二八	五二 二二一	
チリ	五三 一三三		
ウルグアイ	五二 一三三	五二 一三三	
リオデジャネイロ	五二 四二八	五二 一三三	

外務省

0150

方法を是非共御考慮願いたい。
 近時中南米重視の声が漸く高まりつゝあるのは海に喜ぶべき現象であるが、必ずしもこれが裏付けとなる具体的施策に欠ける憾みもあり、殊に米国を始め殆んどの大國が専任大使を之等の國に派遣している現状にも鑑み、中米諸國に対する具体的施策の第一歩として中米地域に於ける公館増設問題の解決を特に望みたい。

0149

RM'-0007

0346

次長 第三課長
昭和三十一年八月三日

在メキシコ
特命全權大使 久保田貢一郎

外務大臣臨時代理 高崎 達之助 殿

中米諸国駐在独立公館開設方要望の件

本件に關しては既に機会ある毎に繰返し要望して来たところではあるが、現在に至るもなおその実現を見るに至っていないので、この繰返し意見を具進する次第である。

本邦に於ては、中米六ヶ国に対する認識は極めて貧弱なように見受けられるが、此等諸国の人口総数は、一千万を越え、その貿易額合計

第三課長

主計室

0151

0152

は既に一九五二年に於て輸出三億ドル、輸入二億四千万ドル（世界年鑑一九五四年に依る）に及び、通商上、無視し得ないのみならず、国連始めの諸国際機構に於て大票を有する点、国際政治上からも大きな利用価値を有するのである。此等の点に着眼し、米、西、西、西諸国等は本信末尾の附表にも見られる通り此の地域に於ける外交布陣を着々強化し、活潑なる経済的、文化的活動を行つてゐる。我國の場合、呉羽紡がエル・サルバドルに進出してゐるが、館員の出張の度びに我國の現状が此の地域に於て知られていないこと、今更に驚する始末であり、現地に公館を設置し、強力な経済外交、啓発活動を行えば、此等諸国に於ては工業化がなお未発達段階にあるだけに更に企業進出も促進され、又雑貨、繊維品等の輸出の増大のみならず、軍化学工業製品の新市場開拓、移民政策の促進等にも大いに貢献することが期待出来る。

現在当館は本便以下七名（スペイン語職員二名）を以てメキシコ

